

# 校長通信

## Morifun

コロナで開け、収束がまだまだ見えない中での今年度ですが、来週には何とか夏休みを迎えることになりました。休業が続いた都道府県の学校では夏休みをかなり短縮して授業確保を行うということです。幸いなことに、そういった措置を取らずに年間行事を進めることができるのも、日頃からの皆さんの心がけ、そして保護者を始めとする関係者の協力のお陰です。残念ながら東京都を中心に第2波とも思われる感染拡大が見られます。長期休業中に人の移動も拡大することを考えると、まずは「人からうつらない、人にうつさない」という自己防衛が大事になります。人込みでのマスクの着用、手洗いの励行、3密の回避などできることをしっかりやりましょう。

### <全校礼拝より>

#### 新約聖書 マルコによる福音書 8章36-37節

「人は、たとえ全世界を手に入れても、自分の命を失ったら、何の得があるのか。自分の命を買い戻すのに、どんな代価を支払えようか。」

本日6月23日は沖縄慰霊の日です。沖縄慰霊の日は沖縄戦で亡くなった方々を追悼する日、そして平和への祈りをあわせる日です。

沖縄戦は太平洋戦争末期の1945年3月末に始まり、激しい地上戦の末、6月23日にその組織的戦闘が終結しま

した。県の人口の4人に1人にあたる12万人もの方々が亡くなり、日本とアメリカの軍人を合わせると、亡くなった方の数はおよそ20万人に上ります。

沖縄慰霊の日の今日、皆さんに沖縄の言葉をご紹介します。《命(ぬち) どう宝》という言葉です。命こそ宝という意味で、沖縄の平和運動において大切にされてきた言葉です。

沖縄の伊江島で反戦平和資料館「ヌチドゥタカラの家」を立ち上げ、また沖縄の基地反対運動の先頭に立ってきた阿波根昌鴻(あはごん・しょうこう)さんという方がいます。阿波根さん自身、たった一人の子どもであった息子さんを沖縄戦で亡くされ、連れ合いのご実家では祖母と父母と弟二人と妹一人が亡くなられたそうです。

この阿波根さんが90歳のときに書かれた『命こそ宝 沖縄反戦の心』という本(岩波新書、1992年)があります。その本の中に、このような言葉がありました。《戦争中、わしらはあまりにも命を粗末に考えておった。二度と戦争をおこなわせないためには、何よりも命を大事にすることである。戦後になって、非常に反省しました》阿波根さん自身、愛する息子さんを沖縄戦で亡くされたわけですが、同時に、自分自身にも責任を感じておられたようです。

戦争中は、「命は鴻毛(こうもう)より軽し」という考えが浸透していました。「鴻毛」とは鳥の羽毛のことです。命は羽毛よりも軽いもの、だから命を捨てることは少しも惜しくないのだ、と。「命こそ宝」とは正反対の言葉ですね。しかし当時は、そのように国のために命を差し出すことが推奨されていた。そのような中、自分たち自身が、命を粗末にする考えに囚われていたのではないかと阿波根さんは振り返っておられます。《これだけの人たちが死んだのは、わしら自身が命を粗末にする考えからぬけだせなかったからである。…》

戦後、その反省を踏まえ、阿波根さんは命の尊さを訴え続けてゆきました。《『命どう宝』(命こそ宝)、これは実に大事なことばである。沖縄戦というこの世の地獄を

経験し、そして敗戦後の半世紀、ずっと基地反対闘争を戦ってきて、もう90歳になるわしが、生涯をかけて伝えたいことばも、またこれでありませう》

この《命どう宝》と共通する言葉が、聖書の中にもあります。先ほど一緒に読んだマルコによる福音書の一節です。たとえ全世界を手に入れても、自分の命を失っては何にもならない。命こそが何よりも大切なものであることを伝えるイエス・キリストの言葉です。沖縄の《命どう宝》のメッセージと通ずる言葉であると思います。

一人ひとりの命は、ただ一つの命です。かけがえのない命です。「かけがえがない」とは、「替わりがきかない」ということです。私たち一人ひとりの命は替わりがきかないものであり、だからこそ大切なものです。

沖縄慰霊の日の今日、《命どう宝(命こそ宝)》であることをご一緒に心に留めたいと思います。(6月23日 全校礼拝・花巻教会牧師・鈴木道也先生)

#### 旧約聖書 詩篇23

「主は羊飼ひ、わたしには何も欠けることがない。主はわたしを青草の原に休ませ/憩いの水のほとりに伴ひ/魂を生き返らせてくださる。主は御名にふさわしく/わたしを正しい道に導かれる。死の陰の谷を行くときも/わたしは災いを恐れない。/あなたがわたしと共にいてくださる。/あなたの鞭、あなたの杖・それがわたしをカづける。わたしを苦しめる者を前にしても/あなたはわたしに食卓を整えてくださる。/わたしの頭に香油を注ぎ/わたしの杯を溢れさせてくださる。

命のある限り/恵みと慈しみはいつもわたしを追う。/主の家にわたしは祈り/生涯、そこにとどまることであろう。」

ニュース等でも皆さん心配されていると思いますが、土曜日から九州地方で記録的な豪雨が続き、大変な被害が続き、避難指示が出ています。天気予報ではしばらく大雨が続くということで心配です。人々の命と安全が守られるようにただ祈るばかりです。

今回はこの自然災害にコロナ禍が重なったため、この二つのことに備えていかなければなりません。こんな時期はハザードマップを確認することが大事です。ぜひ自分の住んでいる場所のハザードマップを確認してください。そして防災意識を高めてください。

話は変わりますが、先週私が勤める花巻教会で葬儀がありました。葬儀は牧師にとって重要な仕事です。その人の一生の最後を締めくくるものだからです。キリスト教の葬儀は礼拝形式で行われ、賛美歌を唄い、聖書の一節の話をします。そこで亡くなった方の略歴を振り返ることになります。そしてその亡くなった方が生前好きだった聖書の言葉を取り上げることがよくあります。今読んだ詩編23は葬儀で読まれることが多い有名な一編で、たくさんのクリスチャンが自分の好きな言葉としてあげるものです。神様が羊飼いで、私たちは主に仕える羊です。下の段の「死の陰の谷を行くときも／わたしは災いを恐れない。／あなたかわたしと共にいてくださる。」自分が死んでしまうような大変な状況でも、そんなときでも神様が私と一緒にいてくださる。聖書の重要なメッセージである「ともにいる」というキーワードでもあります。どんな時でもイエス・キリストがいつも一緒にいてくれる。葬儀で読まれるのは、たとえ自分の生涯が終わっても、これからも神様が一緒にいてくれるんだ、ということ伝えていくからだと思います。「ともにいる」は神だけでなく、誰かと一緒にいることの大切さも思い出させます。友人が悩んでいるとき、どうしたらいいのか、どんな言葉をかければいいのか、分からなくても、そばにいて一緒に悩む。たとえ何かをできなくても一緒にいる、そばにいたことが、その人の中の力を呼び覚ますことになります。

現在、色々なことで大変な状況にありますが、一人では大変だけれど、お互いがそばにいて、ともにいることが大事です。そしてともにいることで、これからの困難を乗り越えていきましょう。(7月7日全校礼拝・花巻教会牧師・鈴木道也先生)

## <部活動を振り返って②>

先月号に引き続き、主将・部長に今の心境を言葉にしてもらいました。今回は文化部が中心です。

- 1 部活動を振り返って
- 2 高総体等各種イベントが中止になりましたが、それについて何かあれば一言
- 3 後輩へ一言

バスケットボール部 3年1組 加藤祐稀

- 1 つらい練習もたくさんありましたが、チーム全体で乗り越えたことは、とてもいい思い出になりました。この経験を糧に今後の人生に役立てていきたいです。
- 2 大会がなくなったことは残念ではありますが、今までやってきたことは無駄ではなかったと思います。
- 3 自分達の大会がなくなった分、後輩たちにはより一層頑張ってもらいたいです。

さんさ部 3年2組 遠藤聖奈

- 1 大変なこともあったけど楽しい部活動でした。
- 2 3年生にとっては最後の大会等になっていたので、中止と聞いて残念な気持ちになりました。
- 3 みんなの元気で明るさで、今まで以上にさんさ部を盛り上げていってください！！応援しています。

英語同好会 2年5組 下野和奏

- 1 一人一人が頑張っていて英語力を高められた。具体的には、顧問から”Short Story”のコピー(個々の希望に合わせた内容)をもらって読んだ。
- 3 これからも頑張ります。英語に興味がある人は一緒に活動してみませんか？

料理部 3年2組 岩崎瑞穂

- 1 週1回の活動ということもあり、勉強と両立して行うことができました。
- 2 その場で食べることができないので、持ち帰りできるものを考えたりして工夫しながら活動しています。
- 3 これからも楽しく仲良く活動しましょう。

美術部 3年5組 岩崎奏江

- 1 コンクールや文化祭に向けての作品創作に努力してきました。先生にアドバイスもらいながら、良い作品に仕上げようと取り組みました。
- 2 高文祭に向けて様々な事を努力してきましたが、それを発揮できず悔しい思いです。後輩は来年度また頑張ってもらいたいです。
- 3 自分を表現する作品を仕上げてください。

華道部 3年5組 山田美空

- 1 先生にアドバイスを頂きながら、よりよい作品づくりに日々励んできました。夏の大会や文化祭に向けて最後の活動を頑張りたいです。
- 2 華道部は、花の甲子園、インターネット花展、文化祭展示があり、それまで3年生も活動します。
- 3 花を生けることを楽しみながら、これからも頑張ってください！

ダンス部 3年1組 吉谷地理子

- 1 コロナウイルスの影響でイベントなど中止になるものが多かったのですが、中止にならないイベントは全て取り組むことができました。
- 2 出られるイベントが少なかったのが悲しかったです。
- 3 これからも楽しく部活してね！！

## <今月のお薦めの一冊・今月の言葉>

今年上半期のマイベストは『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』(ブレイディみかこ/新潮社) 解説は必要なし、今こそこの本を読むべし！そしてこのノンフィクションからの言葉が今月の言葉です。

「エンパシーとは、自分で誰かの靴を履いてみること」この本と出会えたことに感謝するとともに、想像力という知性が与えられた人間こそ、エンパシーを大切にしていくなことを学びました。詳しくはまた次号で。